

第3回浜松市”やらまいか”総合戦略推進会議

日時：平成29年3月17日（金）

午後2時00分～

場所：浜松市役所本館5階 庁議室

1 開 会

浜松市企画調整部長 山名

第3回浜松市”やらまいか”総合戦略推進会議を開会します。

座長を務めます浜松市長から、ごあいさつ申し上げます。

浜松市長

委員の皆さんにはご多用の中、本会議に参加をいただき、ありがとうございます。

現在、市議会を開催中であり、来年度の予算の審議をしています。

今日は新年度予算と施策の中身などについて、ご紹介させていただくとともに、いくつかのテーマについて、ご議論いただきたいと思います。

総合戦略も来年度は3年目に入りますので、計画を実行に移し、成果を上げていく年にしたいと思います。行政だけでできることではなく、市を挙げての取り組みとなりますので、オール浜松で取り組んでいくためにも、忌憚のないご意見をお願いします。

浜松市企画調整部長 山名

前回会議までご参加いただいた岡部委員の浜松商工会議所副会頭退任に伴い、今回の会議から、浜松商工会議所副会頭石川委員にご就任いただきましたので、ごあいさつをお願いします。

石川晃三委員

戦略を推進する場合は多くの方が意見を出し、うまく結び付けていくことが、効果的だと思います。

市長のリーダーシップで進めているとのことで、意見を出しながら、こちらも勉強をしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

浜松企画調整部長 山名

静岡文化芸術大学副学長の根本敏行委員におかれましては、昨年9月にご逝去をされました。心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、謹んでご報告させていただきます。

2 平成 29 年度施策の紹介について

浜松企画調整部長 山名

事務局から説明します。

浜松市企画調整部次長 松永

資料 2 について説明します。総合戦略に掲げる 3 つの基本目標の達成に向け、オール浜松の知恵を結集し、行動していくことが平成 29 年度のテーマです。

基本目標 I 「若者がチャレンジできるまち」は、ものづくりのまちとして発展を遂げた強みを活かし、地元の産業力強化により、魅力的な雇用の場を創出します。また、あらゆるジャンルの創業や、女性の活躍の場づくりなどの支援を充実し、若者、子育て世代の生活基盤の安定を図り、浜松に移り住み、住み続けてもらえるまちを目指すものです。

基本目標の 2 つ目ですが、子育て世代を全力で応援するまちということで、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を提供し、結婚の希望をかなえるため、子どもを持つ親向けのセミナーの実施などの対策を進めたいと考えています。

基本目標の 3 つ目、「持続可能で創造性あふれるまち」につきましては、本市の持つ魅力を発信・活用するとともに、人口減少時代を乗り越えるまちづくり、日常の豊かさを実感できるまちづくりを進めることで、市内外から人を引き寄せる都市を目指してまいりたいと考えています。

地方創生に係る国からの交付金に関する情報としまして、9 ページに 27 年度以降に採択された事業を記載しています。交付金の採択事業については、来年度以降に効果検証などをしていただくこととなりますので、今後よろしく申し上げます。

浜松市企画調整部長 山名

説明が終わりました。総合戦略の基本目標ごとに、29 年度の主な施策ということでご説明をさせていただきましたけれども、ただ今市議会を開催中ですので、市議会の予定ですと、3 月 24 日の最終日に予算案が議決をされることになりまして、いよいよ新年度から執行していくということになります。

ただいま簡単にご説明をさせていただきましたが、何かご質問、ご意見等ありましたら、この場でお願ひできればと思いますが、いかがでしょうか。

またもし何かあれば、この後意見交換には入りますので、その中で関連するようなときがあれば、ご指摘いただければと思います。

3 意見交換

(1)遊休資産の活用について

浜松市企画調整部長 山名

次第の 3 番目、本日の主テーマになりますが、意見交換に入りたいと思います。今回は

オール浜松で取り組む話題を中心に、総合戦略という切り口で 4 つのテーマをご用意させていただいて、あらかじめ委員の皆さんには、お示しをさせていただいていますが、なかなか 4 つすべてを全部議論ができるかということもありますので、各テーマ 15 分から 20 分程度、議論を進めさせていただきます。

なお、どうしても内容によっては時間で区切れない場合は、意見交換の時間を随時延長させていただき、また、4 つのテーマすべてが議論できなかった場合は、次回で議論させていただきたいと考えています。

それでは、まず初めに、遊休資産の活用についてです。

浜松市企画調整部次長 松永

事務局からご説明させていただきます。意見交換に入る前に、議論の視点について、事前に皆さんに資料をお渡ししていますが、自治体、団体、個人などオール浜松の皆さんの視点でご意見をいただきたいと思います。

遊休資産の活用について説明します。総務省の統計局が公表した平成 25 年の住宅・土地統計調査によると、全国で総住宅数 6,063 万戸ほどあります。

そうしますと、空き家率は 13.5%と過去最高になっています。浜松市内の空き家の数は、中区から天竜区まで、それぞれ合算しますと、市全体では 15,620 戸の空き家となります。

空き店舗についても同様の傾向で、これに対する取り組みも必要になります。国においても地方創生の重点事業に、この空き店舗ですとか空き家を含めた遊休資産の活用を挙げており、空き家の店舗活用方策の検討というようなことを進めている状況です。

意見交換において、ご提案・ご議論いただきたいのですが、浜松市でもリノベーションスクールという形で、平成 28 年 8 月の 5 日から 7 日にかけて、24 人が参加、平成 29 年 2 月の 17 日から 19 日にかけて、22 人が参加し、空き店舗や空き家などを有効活用することで、にぎわい創出を進めていくためには、それぞれ何ができるだろうかということについてご意見をお願いします。

浜松市企画調整部長 山名

ご意見・ご質問等あれば、お願いします。

高橋正典委員

起業家カフェとリノベーションスクールが密接に連携し、空き店舗の家賃の把握や共有をしてみてもどうでしょうか。

浜松市企画調整部長 山名

起業家カフェはワンストップということで、具体的なご相談に応じているので、起業家に必要な場所、スペースの情報は持っていると思います。空き家情報とリンクしているか

は分かりませんが、そのご意見というのは、非常に参考になると思います。

村田亜希子委員

友人がリノベーションスクールに参加して、初めて会った人たちとプロジェクトを考え、3日間で事業を計画したのですが、初めて会った人と人生かけて、チャレンジするにはハードルがあります。また、リノベーションスクールの家賃が25万と高額で、課題だと思いません。

もともとまちづくりに関心がある方が参加してるので、3日間のうちに街中を歩いたり、オーナーから課題を聞くことで、浜松を好きになり、浜松に対して何ができるかということ、考えるようになっていくということ聞きまして、素晴らしいと思いました。

実際に事業化するには、まだ課題があると思いますが、やる気、どうやらまいかという気持ちになることも、大事だと思います。

前田剛志委員

その空き家の活用についてですが、天竜区では空き家がたくさんあります。魅力的な場所があっても、使用することができるのか、貸したがつているのか、空いてはいるが人に貸したくないのか、という情報が分かりません。そういう情報の集まる場所というのがほしいと思います。ここが空いてるんだ、貸したがつてるんだ、そこから何に使えるのかという、最初のところがうまくクリアできれば、入り口が広がると思います。

天竜材輸出や国内販路開拓のことですが、生産者からすると天竜材を一番使ってほしいのは、顔の見えないアジアの方よりも、顔の見える浜松の方だと思います。浜松の方たちに天竜材を使ってもらうために、リノベーションを1つのキーワードにすることで、販路開拓につながると思います。

浜松市企画調整部長 山名

移住という切り口では、空き家の情報も含めて、移住相談センターを充実するという計画がありますので、いただいたご意見は参考にさせていただきたいと思っています。

石川晃三委員

実はこの有休資産の活用ですが、481名が所属する商工会議所不動産部会の商業担当の副会長から部会に対して、空き家の店舗対策事業として有効な事業や施策を計画してほしいという要請がありました。

不動産屋と市の情報がうまく連動して分かるようになると、最初のスタートが楽になると思います。

浜松市企画調整部長 山名

ありがとうございます。

松村尋代委員

市がどういうまちにしたいかというグランドデザインを、市民と一緒に考えて作るべきだと思います。

空き家や空き店舗の情報を発信することで、いろいろな団体から活用したいという声があるといます。

この前、お総菜屋で80歳を過ぎたご夫婦から声をかけられました。ご夫婦は、雨でも晴れでも必ず一緒に、街中を健康のために歩いているそうです。「私たちが行けるような場所はないでしょうか。」と質問されたので、街中の喫茶店などを紹介しましたが、「街中には喫茶店はあまりない。」と言われました。浜松は中心市街地から少し歩いたら、防災にもつながるような安らぎの場となる公園があるというまちのデザインもいいと思います。

街中には、カフェエリア、洋服エリア、文房具エリアがあり、天竜区にはカフェテリアがあるのもいいと思います。

現在、保育所が駅前にあります。短時間の預かり所しかないため、お母さんが買い物する時に、子どもの預け先に困ることがあるそうです。その解決方法として、空き家を預かり所として活用してもいいと思います。その運営は、民間企業や団体が行うことになると思いますが、企業としては見返りがほしいので、例えば出資すると法人税が少し軽減されるというメリットがあれば、いろいろな企業が出てくると思います。

石田伸吾委員

遊休資産の活用ですが、コンパクトシティを目指すのであれば、市街地の活性化については全体を広く手を付けるのではなく、少し幅を狭めてどこから手を付けるかという起点を決めた方がいいと思います。

リノベーションスクールは、3日間で終わります。それでは、まち全体の活性化を目指すというよりも、その店舗のことしか考えていないような感じがします。市がグランドデザインを描き、全体としての方向性を決めた方がいいと思います。現在は、リノベーションスクールの開催が目的になっているように感じます。

また土地のオーナーが、物件を取り壊すのか、遊ばせておくのか、借すのかを決めることとなりますが、投資は採算が取れることが前提ですので、オーナーの意向次第では穴あきの状況が生まれます。

全体を括って市の活性化を目指すには、まちづくりの方向性を決めることが必要だと思います。

浜松市長

実はこのことは、何十年もやっています。その考え方は実を言うと、まちを活性化しません。田舎の都市では、必ずそういうグランドデザインが必要だと言って、コンサルタントなどに依頼してしまいます。

浜松市も多分、そのようなものが沢山たまっていると思いますが、それが 100 冊たまって、まちは活性化しません。

なぜこのリノベーションスクールをしているかという、具体的に 1 店舗でも 2 店舗でも活性化の具体例をつくり、そこからそれを面に広げていくためです。これが北九州では成功しています。リノベーションスクールは、北九州から始まりましたが、全体が活性化しています。その成功事例を基に、いろいろな地方都市がリノベーションを始めています。

北九州で成功させた人たちから指導を受けているので、北九州で成功しても、浜松でうまくいかないとしたら、その問題点を 1 度分析することが必要です。

浜松市企画調整部長 山名

1 つ目のテーマでいただいた様々なご意見は検討していきたいと思います。

浜松市長

空き店舗や空き家情報は、インターネットを使って情報収集し、公開するといいです。そして、問題がなければ、いろいろな人が活用できるように、オープンデータ化するといいです。

浜松市企画調整部長 山名

できることは、実施していきたいと思います。

(2) 市民協働の推進について

浜松市企画調整部長 山名

それでは、次のテーマに移ります。市民協働の推進について説明します。

浜松市企画調整部次長 松永

平成 27 年の 4 月から、新しい総合計画を浜松市は策定し、都市の将来像を「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』』としています。

浜松市では、自治会の加入率が 95.7%ということで、政令市の中では群を抜いていますので、本市の強みと言うことができます。

また、NPO の活動も活発で、協働の重要なパートナーとなっており、行政区ごとの人口を NPO 法人数で割った場合には、約 3,232 人となります。

2 ページでは、平成 27 年度に内閣府が行った「特定非営利法人及び市民の社会貢献に関する実態調査」結果を記載しています。

行政による環境整備として求めるものは、認定・仮認定の有無に関わらず、公共施設等活動場所の低廉・無償提供が最も高くなっています。

企業等との連携において、認定・仮認定を受けていない法人では、「助成金の申請・受け入れ」が最も高いのに対して、認定、仮認定法人は、「企業等及び企業等の社員からの寄附の受入れ」が 63.9%と最も高くなっています。

皆さんにお願いしたいことは、多様化する社会的課題の解決に向けて、自治会、市民活動団体、企業の皆さんが、自主性や主体性を尊重し、対等な関係で互いに協力支援する協働を推進するためにできることについて議論をお願いします。

浜松市企画調整部長 山名

それではご意見等、お願いします。

村田亜希子委員

お母さん達は、人一倍子育てに対する課題意識を持っており、何かしたいと思っている人が沢山いますが、自分達が楽しくできる範囲で行動できればいいと考える方が多いです。そして、一歩踏み込んで行動してみると、何か相談したいことがあっても、相談先が分からず困ってしまうことがあります。

私はいろいろな方との出会いがあり、行政とのつながりができ、相談先が分かってきましたが、当事者である市民には情報があまり届いていないと思います。

行政の一番強みは、情報を持っているところですので、行政と市民のつなぎ役がいて、市民に情報が伝わると思います。

原田博子委員

私たちの悩みも聞いていただきたいです。市民協働やNPOでは、お金にならない部分もあります。NPOを運営している皆さんは委託を受けて事業をしていると思いますが、委託を受けられなければ、本来事業ができないNPOがあります。

市民協働では、行政依存するのではなく、企業と連携する方法もあると思います。

企業からすると、NPO自体を理解する機会が少ないので、その架け橋を行政が担うなどして、一緒に課題解決できるような場があるといいと思います。

浜松市企画調整部長 山名

それは、情報をお互いが把握して、マッチングできるような場があるといいということでしょうか。

原田博子委員

いろいろ問題があります。

村松尋代委員

ビジネスマッチングフェアのことですが、NPO が一堂に集まり、商工会議所協力のもと企業に参加してもらい、また行政も来ていただくようなフェアを展示イベントホールで開催できたらいいと思います。

原田博子委員

今度、浜松信用金庫が開催するビジネスマッチングフェアに出ようと思っています。

浜松市長

そうですか。

村松尋代委員

それは原田さんのところだけですか。原田さんのようにいろいろな関係があるところは分かりますけど、他の NPO はどうでしょうか。

原田博子委員

教えていただく機会というのは必要だと思います。

山田万祐子委員

浜松信用金庫のビジネスマッチングフェアは、だんだんマンネリ化し、参加する企業が固定化していると聞いています。

高橋正典委員

ビジネスマッチングフェアですが、前回の開催が第 10 回で、今回は AI 系のロボット関係がテーマになります。参加者の約半分は固定されていますが、参加者も徐々に変わってきており、参加のお願いをしなくても、募集が集まるような状況です。

商工会議所や、遠州信用金庫ともコラボしていますが、また別の組織の参加について考えることも、いいことだと思います。

村松尋代委員

行政もビジネスマッチングフェアに来ていただきたいと思います。

鈴木恵子委員

浜松信用金庫と遠州信用金庫にご協力いただき、CSR サミットを開催したことがあります。NPO ではありますが、浜松市市民協働センターの指定管理と、ふじのくに NPO 活動センターが委託先となり、県西部の事業として今年の 2 月に、市長にもご参加いただき、開催しました。

そこで気がついたことは、企業側も NPO のことをよく知らないのでお金を出せなかったり、お金が悪用される心配もあり、何を基準にしていかが分からないと言われることがあります。

また NPO にしてみると、フェアに出ると、いろいろなメリットがありますが、そこに出る体力がないから、今回はやめておくということで、二の足を踏むことがあります。村松さんが言われたような NPO が一堂に会するフェアでは、参加するハードルが低くなるということです。

それからもう 1 つ、市民協働は対等ということなので、よく WIN-WIN と言われますが、実際にはその WIN-WIN の中にもう 1 個 WIN が無いといけません。

例えば、大学を卒業して NPO に就職する人は、今までいみませんでした。市民協働センターの指定管理をしているので分かったのですが、センターに就職をしたいという人がたくさん来ます。社会貢献をしたいという気持ちを持っている若い人がたくさんいるということが分かりました。

ただし、結婚して子どもができると、「この給料ではやっていけないので、すみません、辞めます」と言って、ほとんどの職員は約 3 年で辞めてしまいます。大変優秀なので、残念ですが、人材育成が最後までできないのは、雇用する NPO に体力がないことが 1 つの理由です。指定管理や委託事業の予算が減ってきていることも 1 つの理由だと思います。人を育てるには、お金がかかるということを、分かっていたらと思います。

私はすごく嫌な思い出が 1 つあります。みんなのはままつ創造プロジェクトが最初にできた時に人材育成の申請をしました。申請の際に、相談したら、「人材育成は創造ではない」、「ものをつくるのか、何か製品としてだせますか」と言われました。おそらく、対応いただいた方は、市民協働ということについて理解不足だったと思います。いろいろな事業の中で、人を育てなければ、まちも活性化されないし、産業も興っていきません。やはり人がキーワードになりますので、そこに重点を置く必要があると思います。

高橋正典委員

「ぴっぴ」と浜松信用金庫ですが、子育て支援の関係で、企業をコラボさせ、地域貢献する取り組みをしています。

NPO の運営が非常に大変ということですが、クラウドファンディングの取り次ぎなどもしていますので、手助けできることもあると思います。

石川晃三委員

先ほど高橋さんが言われたように、いろいろなビジネスマッチングがあります。ビジネスマッチングは明らかに2、3年前から変化しています。商品を売るだけでなく、ビジネスに対して必要なものを合わせるようになってきました。

NPOについてですが、企業からするとよく知っているNPO以外は全体像がつかめないのも、よく分からないということになってしまいます。

高橋正典委員

ビジネスマッチングフェアや商談会は、お祭りやフェスティバルだと思われる方がいるかもしれませんが、徐々に、ただのお祭りではないと思われるように、今後考えていかなければいけないと思います。

石川晃三委員

3年間、ビジネスマッチングの実体を調べてみましたが、製品ではなく技術をコラボレートするような動きもあります。

それから、例えば大学とコラボレートするという話となると、市の協力も必要だと思います。

鈴木恵子委員

南区の若林にシュテルン浜松というメルセデス・ベンツの会社がありますが、その会社の店舗が中心になり、自動車街の店舗と連携して清掃活動していました。その近くにある小さな公園のことですが、「草のなどをきれいにしたいが相談先が分からない」ということで、相談を受けました。私が間に入って、市の公園緑地課に聞いたところ、公園愛護会が取り持つことになり、今ではディーラーが公園の清掃活動をしています。

夏祭りでは、自治会だけでなく企業も参加し、また静岡文化芸術大学の学生も参加に向けて動き始めています。

企業であるシュテルンの店長から「NPO が間に入ることで、企業も社会貢献を考えているということを理解いただくことができ、良かった。」と言っていました。

NPO が、間に入ることで、NPO、自治会、企業や学生のマッチングがうまくいくことがあると思います。

浜松市長

今、意見を聞いたところ、いろいろなことができそうな気がします。本市はCSR表彰をしていますが、表彰だけで終わるのではなく、CSRに関心を持っている企業とNPOをマッチングさせることができる気がします。

また少しセンスのある方から、稼ぐアイデアなどをいただければ、変な言い方になりま

すが、お金に換えられると思います。

東京にいる人のことですが、貧困な家庭の子どもへの教育支援として、塾のようなことをやっています。無料ではなく、わずかな金額です。半分ボランティアですので、交通費に毛が生えたぐらいの金額となりますが、運営費程度にはなっています。

例えばインターネットの世界ですと、ほとんど無料で利用できます。例えば、グーグルの検索はお金がかかりません。どういう方法で、グーグルがお金得ているかということ言うと、広告の関係です。

例えば「びっぴ」の場合は、ヒット数が多いので、例えば子ども関係の企業から広告を取れば、収入になると思います。

NPO 法人の活動に対し、稼ぐアイデアを提案するコンサルタントが必要だと思います。

中島 イルマ 雅恵委員

市長が言われたように、半ボランティアで子どもたちに学習支援をしている方がいるということですが、浜松でもブラジル人で、ブラジル人の子どもたちを集めて、活動している方がいます。無料ではなく、交通費分のお金をだけをボランティアの先生に渡しています。子どもの数は約 20 人で、ザザシティの 5 階で毎週土曜日に活動しています。その方は NPO にしようか悩みましたが、NPO になると報告書などの書類をたくさん書く必要があり、ハードルが高いということで諦めました。任意団体として、定款もなく、運営しています。子どもたちの親からいただいたお金でその場所を借り、先生が授業しています。今では、学習支援を待つ子どもが約 10 人いますが、先生が足りなく、場所も狭いので新たな受け入れができない状況です。

特に外国人ですと、何かしたくてもできないのです。行政に頼ることができないので、お金が足りない時には、自らのポケットマネーで場所代を払うこともあります。もう少し簡単に NPO になることができようになり、資金がもう少しあれば、いろいろなことができると思います。

柴田直緒子委員

イルマさんの話を聞いて、学生でもいつか NPO にしたいという人がいますが、書類などの関係や、また学生のうちは継続的に運営できるか分からないという不安があるそうです。本業があるため、NPO にはせず、そのまま任意団体としている人もいます。

学生団体の任意団体は、信頼され難いので、やりにくいことがあったり、企業などにも行きにくいことがあります。

学生団体は信頼を得ることが難しいということは、理解していますが、何とかならないかと思います。

鈴木恵子委員

NPOの相談とかを受けていると、NPOがいいのか、又は企業として一般社団法人や、株式会社の方がいいのかという相談をたくさん受けます。その時にお話しするのは、NPO法人与自然と名前が付く限りは、株式会社と同様に登記をするということですので、その覚悟を持って立ち上げてくださいと言っています。

その中でハードルが高いと感じる時には、例えば同じこういう事業だったら助けてくれそうな、親になってくれるようなNPOを探すということも1つの手であるとアドバイスします。

実はうちのNPOは、福岡の任意団体の親組織みたいな形で、NPOになれないところというか、ゲイでHIVの子たちのグループですから、名前も出せないし住所も出せないです。しかし、市や県から委託を受けてくださいと言われても、法人でないため契約できないので、その任意団体が困った時には、魅惑的倶楽部という法人として契約することがあります。

困っていることがあれば、一緒にやれるような団体を探すことも一つの方法だと思います。学生の団体でも、やり方はいろいろとあると思いますので、是非うちにも相談に来てください。

村田亜希子委員

市民目線が必要であり、任意団体で活動することが重要です。

また、最近では働く女性ばかりに注目が集まり、地域貢献する女性の声が届きにくくなっていると思います。

(3)三遠南信地域の広域連携について

浜松市企画調整部長 山名

3つ目のテーマに移りたいと思います。三遠南信地域の広域連携について説明します。

浜松市企画調整部次長 松永

それでは、三遠南信地域の広域連携についてご説明します。

東三河と遠州と南信州地域は県境を越えて、独自の生活文化圏を形成しています。行政という立場ですと、防災、産業振興など、今連携が進んでいます。

皆さんにお伺いをしたいご意見・ご提案は、三遠南信自動車道、新東名高速道路などのインフラも整備が進む中、更なる連携強化を図るとともに、本市がその圏域の中核的役割を果たすことにより、どのような効果が期待できるだろうかということです。

要するに本市の役割というところで、こういう連携もいいのではないかというご意見などをいただきたいと思っています。

浜松市企画調整部長 山名

それでは、三遠南信地域の広域連携についてです。

分かりにくいところもあると思いますので、ご質問等も含めてご意見をお願いします。

浜松市長

これはどういうことかと言いますと、例えば静岡県は横に広いです。皆さんの日常の活動でも、東部の伊豆半島、沼津や三島は、何かご商売の関係でお付き合いがある場合は関係があるかもしれませんが、ほとんどは関係はありません。

これはもともと静岡県では、浜松県と静岡県と足柄県と、東中西で明治のときに強制的に合併させられて、今の静岡県になったのです。今までの行政の組織というのは、中央集権的に国の方針があって、基本的に都道府県がそれを受けて、その県内でいろいろなことをやるということだったので、今まで静岡県の枠組みがありましたが、考えてみるとほとんど日常的には、県の境目なんか関係ないというのが、この三遠南信です。

それで、県という意識を除いて、いろいろな経済圏、文化圏、活動圏など、いろいろなことをやっていきたいと思いますというのが、この三遠南信の取り組みです。行政だけでなくいい訳です。既に信用金庫などは、三遠南信の連携をしています。これこそ NPO の団体の皆さんや、いろいろな皆さんが、その圏域でこういうことができるので一緒にやりましょうということなのです。

村松修委員

それでは、三遠南信で広域連携を進めていただき、その中で浜松市が中核的存在というのか、いわゆる県庁という形で動けるようになると思います。

広域的インフラについて、主に道路のことですが、JR 東海道線、飯田線、遠鉄電車といった鉄道インフラも、この中に組み込んだ方がいいのではないかと思います。

浜松市長

大事なポイントですが、湖西では、湖西病院で出産ができなくなったので、浜松か豊橋に行くしかなくなりました。また、浜松では幸いなことに、出産数に比べ、それを受け入れることができる数の方が多いので、他地域からの受け入れができます。

ごみのことになりますが、浜松のごみを湖西で処理していたことがあり、多額の費用がかかっていました。現在は、湖西のごみ焼却所はやめ、湖西と浜松のごみを浜松ですべて処理していますが、ごみ処理のコストを大幅に下げることができました。

このようなことはたくさんありますので、医療についても圏域は関係ありません。三方原聖隷病院の辺りは、愛知県の東三河辺りからも患者が来ています。

湖西の市民が困っていることで、浜松が引き受けることができることは、もっとアピー

ルした方がいいと思います。

浜松市企画調整部長 山名

確かに生活のレベルでは、境は関係ないです。

浜松市長

市民の皆さんにしてみたら、サービスを受けられれば関係ありません。

石川晃三委員

三遠南信道路が完成すると、世の中変わると思います。新東名のときに、スマートインターチェンジができただけで、ものの流れ、企業の対応、情報の早さなど、ずいぶん変わりましたので、三遠南信道路は早く完成してほしいです。市長にお願いして、必要なところにスマートインターチェンジをつくっていただきたいです。

浜松市長

今は部分供用しているだけですが、結構効果を発揮しています。

国の事業では、陳情しか方法がないので、年間に数回行っています。

結局、浜松市の事業もそうですが、限られた予算をどう分配するかということですので、静岡県内だけでも、伊豆縦貫など様々な事業があり、中部地方整備局管内のわずかな予算を振り分けると、三遠南信の予算は限定され、整備がなかなか進みません。

藤本和彦委員

私はジェットロという立場ですが、豊橋や湖西の方が来られます。先ほどの医療と同じで、圏域に関係なく、国民がいかに快適に暮らせる生活を送れるかということが大事です。

これは一般市民として思うのですが、豊橋市とは広域連携を進めやすい環境がつけられていると思います。

湖西市とは、直虎などのメリットを圏域で共有していけばいいと思います。

気持ち的には、オープンなまち・エリアを目指してほしいと思います。

浜松市長

そのことは、藤本さん言うとおりで。私が言うのも変ですが、行政が駄目です。

この三遠南信は毎年会合があります。商工会議所や民間の人は、一生懸命参加しているのに、行政が参加していないことが多いのです。

浜松市企画調整部長 山名

静岡県の西部の地域も 8 市町で、市長が言われたように、湖西市は直接三遠南信に接し

ているところですからいいのですが、天竜川よりも東は、かなり関心に温度差があります。

浜松市長

そうです。それこそ商工会議所や金融機関の皆様は来てくれますが、行政が来ていないのです。

浜松市企画調整部長 山名

三遠南信の取り組み以外にも、浜松市が中心となって西部地域の市町といろいろとやっ
てはいますが、温度差を感じるがあります。

浜松市長

今それを少し制度的にも担保するという意味で、広域連合をつくろうと思っています。
これができますと、正当性をもって、圏域を越えたいろいろな事業が、そこで議決すれば
できるようになります。

県までは無理ですが、取りあえず 1 つの県と同じぐらいのエリアの団体を目指していま
す。

浜松市企画調整部長 山名

三遠南信の取り組みも、市民の皆さんによく知っていただきたいと思います。

テーマですが、あと 1 つ残っていますが、時間の都合で、次回に議論させていただき
たいと思います。

4 今後のスケジュールについて

浜松市企画調整部長 山名

次第の 4 番目、今後のスケジュールについて、事務局から説明させていただきます。

浜松市企画調整部次長 松永

今年度は本日が、一応皆さんの担当としては最後ということになります。裏面をご覧い
ただきたいのですが、29 年度のスケジュールを記載しています。今現在の予定とし
ては、6 月、それから来年の 3 月に 2 回の会合を予定しています。また必要に応じて、追加
で開催することも検討したいと思いますので、よろしくお願ひします。

来年は先ほど市長から言われたように、3 年目ということになりますので、よろしくお願
ひします。

浜松市企画調整部長 山名

事務局からの補足ですが、委員の皆さんそれぞれの諸団体、諸機関から来ていただいています。これから年度末を迎え人事異動等があると思いますので、委員の皆さんの肩書きや部署の変更等がありましたら、事務局まで、ご連絡をいただければと思います。

それから今回の会議の議事録の確認につきましては、文書で連絡をさせていただきますので、よろしくお願いします。

5 閉会

浜松市企画調整部長 山名

それでは、本日の会議につきましては、これをもちまして終了します。ありがとうございました。

(文責：浜松市)